

アイカツシステムで草原の姿に演出された光射すステージの床には、ボトムがバルーンショーパン型の燕尾服に大きめのシルクハット、童話に出てくるような丸っこい革靴といういでたちでアンジェリカが座っていた。その顔には先程までと違い眼鏡がない。舞台女優としてステージに立つ証である。

シルクハットを床に置くと、中からオルゴールを取り出し、ぜんまいを巻く。カリカリという音の後、オルゴールは『星に願いを』を奏で始める。歌詞で言う『Will come to you』のところまで流れたところで、アンジェリカのマイクなしの肉声が静かに、しかし大きく響き始めた。

『When you wish upon a star...』

そこでホール全体が満天の星空に包まれ、アンジェリカを照らす照明も抑え気味に。座ったままで時に優しく、時に強く、抑揚をつけて歌い続ける。伴奏はオルゴールだけ。

しかし、オルゴールは『The sweet fulfillment of...』のところまで止まってしまう。アンジェリカは歌唱を止め、またぜんまいを巻く。2回、3回。そして、オルゴールをステージに置くと立ち上がった。

『...Their secret longing』

続きを歌うや、次の小節に進むタイミングで伴奏はフルオーケストラへ。ホール上で瞬いていた星が一斉に客席に降りてくる演出。そして再び『When you wish...』のフレーズに戻った時、伴奏は消えアンジェリカのソロへ。締めを澄んだハイトーンの長い長いビブラートで歌い切る。手をかざした先に、1つだけ降りてこなかったひとときわ輝く星。少しの伴奏を最後に残し、アンジェリカの姿に当たる照明が弱まり、やがて音響と共に消えた。

その後2分ほど拍手が続く間、星は輝いたまま。

やがて暗いホールにピアノの音色が響く。高音側のコード弾きに、低音の単弾きの3音目が響いた時。

小さな小さな光が舞台上で輝く。その輝きが僅かに吾華音の姿を照らす。小さな光を膨らませ、空に浮かべるを繰り返しながら、吾華音の歌唱が始まった。

『1度だけ 1つだけでいい 美しい 光りを見たい…』

歌の進行に従って、吾華音が浮かべない場所からも光が生まれ、浮かんでいくその光が吾華音の姿を徐々に照らしていく。ロリゴシックの新作、スターライトシャドウコーデ。伴奏も少しずつ厚くなり、やがて1サビへ。座っていた吾華音が立ち上がる。

『迷う度に心を 落としていく 痛みが突き抜けて』

浮かべた光たちはいつしか夜空の姿を成し、その中に先程から浮かぶ星がひとときわ輝く。1サビが終わるタイミングで夜が明けていく演出へ。しかしアンジェリカから引き継いだ星だけが蒼穹にあってなお光り続けている。

ウユニ塩湖を思わせる水面と空の間で、朝陽に照らされる吾華音のドレスに視線が注がれる。徹底して光を排除した黒のドレスに封じ込められた圧倒的ディテール。2サビまでの間を、吾華音は感情を込めた歌声とともにバレリーナもかくやの舞いでドレスを引き立てる。夢小路魔夜の言葉と、失った記憶に想いを馳せながら。

そして2サビ、ドレスチェンジ。ここで事件が起こる。

ドレスが輝き、光が砕けた中から姿を現わす、ラブムーンライズの新作、ルミエールブランシェコーデ。しかし。

吾華音がプログラムしていないものが視界に入る。浮かび続けていた星が自分の身体に飛び込むや、舞い踊るピンク系のオーロラ色の羽毛。瞬く間に辺りを埋め尽くす。そして視界に入る翼の先端、思わず振り返る。見覚えのある翼、しかし大きい。大きすぎる。もうすぐ採用される、新規仕様の翼のアクセサリー用ライブラリが許容するレベルの軽く10倍はある。こんな事が出来るエンジニアは、1人しかいない。そして。

この翼の意匠を行使できるデザイナーも、1人しかいない。

嬉しさや感動、感謝。そんなたくさんの気持ちに支配され、吾華音の声次第に涙声に。ついには歌声が止まってしまう。その時。長く自分を支えてくれた「あの人」の声が響いた。

「頑張れ、召苗！！」

...

その声をトリガーに、吾華音の中に蘇る記憶。

祖父に突き放された事に気付き、悲しみに暮れる幼い日の自分。自失状態で学校を出て、街を彷徨っていた。何時間か経過して、空腹でふらつくまま車道に倒れ込み、車に轢かれかける。

すんでの所を助けた彼女の「先生」は、彼女を叱る事なく、こう言った。

「吾華音ハニー、いや、召苗。俺の仕事を手伝ってくれないか」

そう言ってまだ小さい彼女の手を取った、大きな手。ダンス界のレジェンドの手。泣きながら頷いた自分に「先生」は満面の笑みで言った。

「よし。今から君は、俺の大事な仕事仲間だ。よろしくな」

その後、彼の胸で大泣きした。そして今に至る仕事の記憶が、誇らしい記憶が、

自分を鼓舞する。

(ありがとう、ジョニー先生…！)

…

涙目のまま少し微笑んで、吾華音は歌に戻った。

『…祈っては見上げる 夜空に夢を重ねる』

その先、間奏から2サビのリピートにかけての舞い歌う姿は、アンジェリカを観に来た、眼の肥えた観客をも釘付けにした。想定外の翼も含め、ただただ白く美しいドレスを、まるで我が身の一部のように動かし、輝かせる。

歌の時系列で空は昼光から夕暮れへと変遷し、アウトロで再び闇へ。しかし今度は大きな満月がドレスを照らす。吾華音からデザイナーの神崎への感謝の演出。

アウトロのピアノが止まる。

客席で真っ先に1人の女性が立ち上がり、拍手を。仮面の下に涙が光る。隣の女性も微笑んで立ち上がり同様に。やがて会場全体からスタンディングオベーションが。

翼が光の塊となって崩れ消えていく。吾華音はステージの先端に立ち、客席に深々と一礼した。数十秒の後、頭を上げ、口を開く。

「アンジェリカ・アルテミエワで『When you wish upon a star』、私、召苗吾華音で『Lights』をお届けしました。いやあ…やられましたね、今回のステージ進行、もちろん全て私が手掛けてたんですが…私のとこいじってあったんですよ。しかも見たことのないアクセサリーまでついて。あれで泣かないほど私頑丈に出来てないです。まだまだアイドルとしてはひよっこですね。ステージ経験の浅さを露呈してしまいました…」

すかさず会場から「普通泣くー！」の聲が飛び、笑いが。

吾華音も少々苦笑いしつつ、続ける。

「そうかなー、例えば神崎美月さんや星宮いちごちゃんなら絶対泣かないと思います…そうそう、今着ているこのドレスは、その神崎美月さんの作品です。素敵でしょう？前半のドレスは夢小路魔夜先生の作品で、こちらも素敵で。対成す黒と白、お楽しみ頂けていたら嬉しいです。あと、不意打ちの翼はアクセサリーだけではアイカツシステムに落とし込めないで、デザイナーの先生とエンジニアの先生の仕事…なはずです。間違えてなければ天羽あすか先生、夢咲ティアラ代表、素敵なプレゼントをありがとうございます」

客席内で拍手が。

「そして…いつも大事な時に背中を押してくれるジョニー別府先生。また助けてもらいました。カッコいいですね、参っちゃいますよもう」

若い女性客の「ええー」という声の後、男性の声で「オウノウ！」と。再び場内が笑いに包まれる。

今度は苦笑いでなく晴れやかな笑顔で、さらに。

「他、今日の舞台を提供して下さった、プルミエ・ブラン支配人の小野田さんはじめスタッフの皆さん、光石織姫学園長はじめスターライト学園の先生方、生徒のみんな、衣装協力して下さったデザイナーの先生方、そして…」

マイクを外し、自分の声で。

「忙しい折招待に応じて下さった皆さん、大事な相棒であるアンジェリカ姉さんとアリーシャ、そしてその家族の皆さん、大好きな妹の新、本当に、本当にありがとうございました！」

改めて深々と一礼。拍手と歓声に包まれる中、ステージ袖からアンジェ

リカ達も姿を見せる。新は泣いていたようで、少し目が赤い。再びマイクを着けた吾華音が

「以上で今日は終演となります」

と言うと「えー！」のリアクション。
すかさず、

「お・や・く・そ・く♪」

と返す。再び笑い声。

「では、ひとまず終了します。それっぽい感じでお待ちください！」

4人が手を振りながらステージを去る。場内に笑いが広がった後、手拍子が始まった。

数分の後、4人がステージに戻る。アンジェリカだけさっきの衣装のまま、他3人はスクールドレスに着替えている。早速吾華音がMCに。

「お待たせしましたー！久しぶりにですね、スクールドレス着てみたんですよ。今スクールドレスはアイドル養成校間で統一仕様のマジカルコーデという、今日の1曲目で披露したものがあんですが、その前にあたる仕様のものです。私のはソレイユのみんなと同じデザインですが、ちょっと見ててくださいね。アイカツシステムは使ってないんですが…それ！」

吾華音がブレスレット型の端末を弄ると、ドレスの色が次々変わる。しまいには自発光まで。そこからモノトーンに。

「サイリウムなんかー！とかですね。ハイマイティパレードというド

レスで、マジカルコーデの試作用に作られたものです。発光以外はマジカルでも出来るんですが、コントローラー持ってるの今日のお客さんだと霧矢あおいちゃんと冴草きいちゃんだけかな？使ってみたい人は各校の先生に聞いてみて下さい。次は新のドレス」

「私のはウイステリアパレードというドレスです。姫桜女学院の藤原みやびちゃんのドレスの色違いに、あかりちゃんやひなきちゃんのパレードと同じような腕の装飾がついたものです。ウイステリアは藤の花、薄い青紫です。次はアリサちゃん」

「アタシのはウインドドリーム、基本はソラのドレスのノースリーブで、キイのニーソとハイカットスニーカーっぽい靴を合わせて、白とブルーメタ系で合わせたデザイン。ちゃっかりスポンサーカラーにさせてもらって学園長ありがとうございます。おかげでこの衣装でもスタントできる！」

今日何度目かの笑いを掴んだアリーシャに、アンジェリカが続く。

「せんでいい！ついでなので私がさっき使った衣装を紹介させて下さい。歌が歌でしたので世界一有名なコオロギのモチーフですが、この衣装のデザイナーさんのドレス、アイカツシステム用のプレミアム持ってる子、今スタライとドリアカに1人ずついますよね？」

客席から様々な声が上がる中の1人の声を、しっかりアンジェリカが拾った。

「はい、今『うそうそうっそー！』って言った君、大当たり。ブランドコードはこの舞台衣装にはつかないんですが、マルセルさんが請けて下さいました。びっくりしたでしょう、落ち着いてるもんね。実はかなりクラシカルな舞台衣装まで男女問わず幅広くやって下さってるって一面も彼にはあるんです。仕事が早いんですよ！アトリエのメンバーも優秀です。Thank you so much, Malcel. I'm lookin' forward to working

together again」

アンジェリカのお礼の言葉に会場から拍手が少し。再び吾華音にマイクが戻る。

「オーダーシートが凄かったんですよ。『ジミニーの歌やります、あんな感じのを』3日後に航空便で届きましたからね。しかもサイズぴったり」

アンジェリカが口の前で人差し指の仕草。自然と会場に笑いが出るいい空気を感じながら、吾華音が続けた。

「さて、続いて今から歌う曲の話を。スタライの生徒さんならご存知の人もいるかな、この曲は歴代のスタライの学生有志が作詞作曲編曲を在学中に手掛けて、振り付けも、今スタライでダンスの先生兼振付師として働いている先輩が中心になって決めたものです」

会場が少しざわめく。今となっては知らない生徒が多いか。

「みんなの練習用のデモ作りが最後で、光栄なことに先輩たちは私に任せて下さって。今のところ、この歌を『作る側』に居たのは私が最後ですが、もっといい変更を思いついたらチャレンジしてみるといいと思います。私はもう生徒じゃないから手伝えないけど楽しみ！それじゃ行きます『オリジナルスター☆彗』」

イントロの途中で吾華音の口から「客席で振りが分かる方、立って御一緒に！」と。結構な人数がその呼びかけに応えた。

3人または2人が有名なローテーションを4人用に組み直してのステージ。無事歌い終えて吾華音が一言。

「今ね。こっちから観て凄いことが起きてました。この歌ができる前に

活動していた伝説のアイドルユニットのおふたりが振りバッチリやってきました。やっぱりレジェンド、凄いですね」

会場がどよめく。当の本人たちが笑っている姿が吾華音の視界にあった。

「続いての曲は、ルミナスのみんなの持ち歌ですがソレイユのステージで感動した人も多いのでは？『Good morning my dream』」

今度は少し嗜好を変えて、4人がバラバラに客席に入りながらの歌唱。2コーラス目からドレスが私服へ。

入れ違いに歌っていく中、間奏でアンジェリカ以外のコーデが制服に。大サビを迎えるところで、吾華音はスタライの制服姿で長身の男性の傍に。本来コーラスで歌う最後の部分からソロで。

『私を選んでくれたのありがとう きっと 叶えるからね』

男性は口元の笑顔とサムズアップで応えた。笑顔で吾華音は受け止めて、スタライ関係者が集まるあたりに腕を広げ向き直る。

『憧れの先を一緒に描こう 目覚めてるmy dream わたしの親友』

先輩と呼ぶ声、先生と呼ぶ声、吾華音と呼ぶ声が客席から飛ぶ。続くフレーズを4人で歌いながら、歌詞の通り小走りで再びステージ上へ。集まったタイミングで…

『La la la la la Good morning, la la la la la la la la la』

例の振りで締める。綺麗に落ち着いて歓声上がる中、こっそりアリーシャが「フルコンボ！」と呟いた。しかしそれはマイクにきちんと拾われ、場内がやはり笑いに包まれる。しっかりツッコミを入れる吾華音だ

が、今日のアリーシャには感謝していた。ここまで温かいステージを、自分1人では作れなかっただろう。

「さて。私のデビューイベント…でしたが、なんだか新とアリサには実戦経験で差を見せつけられちゃったし、アンジェリカ姉さんはやっぱりお化けだしで、まさかここまで新人氣分を痛感するとは思っていませんでした」

「誰がお化けだ誰が」

「アメリカでは出演舞台がブルーレイで売られてるひと」

客席の一部から笑い。一部からはどよめき。さりげなくアンジェリカの宣伝をしつつ。

「…ステージの上で繋がっていくバトンを、例えばいちごちゃんのお祭りや、スタライで言うならクイーンという形で皆さんも目にしてきたと思います。今日のステージは、私がバックステージで、色々な分野の頂点を極めた方々から少しずつ受け取って作ったバトンを、ステージの光に照らす意味もあります」

客席から、よく知った声で「頼んだよ！吾華音！」の声が飛ぶ。主に大人たちの声で、吾華音が驚く程の人数から同様の声援が続いた。お辞儀で応える吾華音。

「私はステージの夢は、妹の新に託したつもりでいました。ですが、今回のオファーを頂いてから、既にステージとバックステージを両立している子たちが何人もいることに気がつきました。ステージが決まって今日までの間、実は何度も自問しました。『この道でいいのか』と。その時勇気をくれたのが彼女たちでした。中でも…」

客席に降りていく吾華音、近づいた席で観客の1人の手を取ると「仮面取っていいよ」と一言耳打ち。

「ドリームアカデミーの冴草きいちゃん。彼女はバックステージからステージにやってきたという意味では私の先輩です」

少し慌てふためきながらも、周囲にお辞儀をする冴草。拍手と歓声が。吾華音は近くにいたもう1人の手を取る。

「同じくドリームアカデミーの風沢そらちゃん。言うまでもなく今やトップデザイナーの1人で、うちは姉妹揃ってボヘミアンスカイと彼女自身の大ファンです」

流石に大物、笑顔でお辞儀をする風沢。拍手も大きい。続いて行った席で手を伸ばすと、言われるでなく相手は仮面を取って立ち上がり、まず吾華音に一礼した。「噂のお辞儀、目の前で見ちゃった！」と言うと会場から笑いが。そこで照れる仕草が出る。

「続いてスターライト学園から。断言しますが私はこの子はプロデューサーとして最大のライバルだと思っています。そして、彼女がゆくゆくスターライトの学園長になるなら、喜んでその下で働くつもりです。霧矢あおいちゃん」

おお、という歓声と共に大拍手が注がれる。当の本人はすっかり真っ赤。続いて。

「今日は粹なイタズラをありがとう。本日の私の勝負服のデザイナーであり、未だ多くのアイドルが目標とするトップアイドル。そして…スターライトクイーンになる前から私なんかがステージに上がることを請うてくれていた子です。待たせてごめん、神崎美月さん！」

ひときわ大きい大歓声と拍手の中、吾華音のマイクを取り上げて神崎が言い放つ。

「待たせすぎです！私のアイドルの匂、過ぎてますよ！」

会場はどよめきと笑いで真っ二つ。苦笑いする吾華音に神崎は続けた。

「でも、待ってて良かった。先輩のランウェイ、最高じゃないですか…」

涙声。うつむいて落涙する神崎。会場が静まる。吾華音はヘッドセットをアクティブにすると、優しく微笑んで、素の口調で言った。

「…ライブやっちゅーねん。あんな凄いドレス預かって『無様は許さない』なんて言われたら、ど本気出すに決まってるよ。でも無様しちゃったけど」

「…そうですね、次はオーディションで完璧を見せてください。全力で倒しに行きますから」

「それなら匂過ぎたなんて寂しい事言わない！匂ぐらい自分で作りなよ、美月は今でもあたしの真ん中星なんだから」

「…はい！」

目尻から溢れる涙を隠さず、しかし誇りに満ちた目で神崎が応えた。拍手の海の中、その手からそっとマイクを取ると、吾華音はそのまま隣で見上げていた女性に手渡す。「えっあたしも！？」の声に気づいた僅かな観客から笑いが。

「もっともっと居ますが最後に。色々凄い美月がやっぱり凄いと思ったのは、この人の優れた才能を見出した時でした。素晴らしいアイドルにして世界最高のガーデニスト、夏樹みくるさん！」

「いやいやいや待ってください吾華音さん、あたしが凄いんじゃないですよ！美月だけ褒めたげて下さい！」

「実は裏方時代に、たった一度だけオーディションで競いたいと思った事があって。相手はみくるちゃんだったりのですよ。念願叶うといいなあ」

「マジですか！勿論お受けします！美月にも負けないからね！」

言う事が瞬転した夏樹に会場から笑いと拍手。

朗らかな笑顔で夏樹が右手を差し出す。その手を握って吾華音が言った。

「あたしが勝ったら新に盆栽プレゼントね！」

「それ、アリサにも前に言われましたよ。新ちゃんモテるねー！」

場内が笑いに包まれる中、ステージ上の新とアリーシャだけが赤面していた。夏樹が吾華音にマイクを返すと、そのマイクをそのまま星宮いちごに渡す吾華音。マイクをオフラインにして小声で言う。

「じゃ、よろしくね」

「はい♪」

笑顔で応える星宮。ステージへの階段を昇りながら吾華音がMCに戻る。

「彼女たちをはじめ、今日こうしてここに立つ勇気をくれた皆さんに、心から感謝を。ありがとうございます！」

一旦立ち止まり、客席に向かって一礼すると、大きな拍手が。

「勿論バックステージでもこれからも大暴れますからね、新しい事一番最初に、は貪欲にやっていきます。今日も山ほど小ネタ仕込んでましたが超楽しかったー！これ、もはや趣味ですよ！」

喋っている最中にも吾華音の周囲で春夏秋冬巡ったりタイムラプスで数秒で1日巡ったり。

「私とオーディションで当たるアイドルのみんなも、遠慮なく仕事オーダーして下さい。多分自分のよか喜んでやります。今回わかったの。自分のは胃が痛い。ASDCのスタッフさんどなたか、私のステージプロデュースしません？」

どっと笑い声。しかし客席の一部が吾華音から必死で目を逸らしている。ただし口元は微妙に笑っている。

「どうしてここで先輩方無視するんですかー！」

さらに笑い声が。ステージにたどり着いた吾華音、一呼吸置いて。

「さて、次が本当に最後の曲です。慣れないことをいっぱいしたので疲れちゃいました！なので最後は今日来てくれたアイドルの子たちに手伝ってもらっちゃいます。みんな、お願い！」

吾華音の声で一斉に立ち上がり仮面を外す現役アイドルたち。アイドル以外の観客は勿論、アイドル同士でもあの人 coming、といった感じで盛り上がる。

「この輝く光の筋が、これからも繋がり、交差し、拡散して数を増し、集束して強くなる事を願って。そしていつか、もっとステージの表と裏両方に関わる人が増えるのを楽しみにして。歌います！『SHINING LINE*』！まずはこの人っ！」

吾華音の声と共にスポットを浴びたのはソレイユの3人。星宮のリードで。

『今私たちをつなぐ 胸の中 きらめくライン』

トップアイドルの登場に大いに沸く場内。その後のイントロの間に、新

とアリーシャが客席に駆け下りて行った。持っているマイクをアイドルたちに配っていく。

歌う組み合わせは普段のユニットでなく、事前に回答があった、ないし吾華音が噂や本人直接で聞いたり霧矢からの情報で知ったデュオないしトリオ、カルテットになった。

神崎が白樺と、夏樹が大地とのペアで「輝きの分岐」を演出したり、大空・服部両名が念願のペアとなったり。ソレイユの3人は2度目もあり、星宮は天羽・音城妹と、霧矢は神谷と、といった組み合わせが見られた。そんな中ルミナスで最初に歌ったのは新条。アンジェリカから強いラブコールがあり実現した。新はあまふわプラス北大路のカルテットと吾華音と風沢を交えたトリオに、アリーシャは黒沢と。アンジェリカは一ノ瀬と冴草のパートにも招かれた。

それぞれに思い思いのスタイルで歌う中、1サビは全員、2コーラス目はまたそれぞれに、2サビの入りはチームあかり、真ん中はチームいちご、最後はチーム美月と主催4人合同。

そこから間奏1を経て、

『なりたいたいだけじゃ駄目だなんて』アリーシャ、

『夢のままじゃ違うなんて』アンジェリカ、

『きっと私 最初から知ってた』アリーシャ／アンジェリカ。

『逸らせないくらい(Rep)綺麗だったの(Rep)』新(吾華音)

『ありったけの勇気出して 手を伸ばしたんだ』吾華音／新。

間奏2のうちに、吾華音はティアラのいる場所へ。そして向き合いながらソロ歌唱。

『ココロが晴れ渡る 笑顔が嬉しいの ありがとういつまでも私の道標』

歌った側、歌われた側が同様に達成感ある笑顔で。

ラストパートは全員で歌いながら。主催の4人はステージへ。そして

『憧れのSHINING LINE*』

と歌った瞬間、無数の光の線が場内の全員をつなぐ。

『チカラにして』

をソロで締める吾華音。光の線はそのまま空に浮かび、点を残して星座の体を成す。そしていつしか美しい星空に。歓声が漏れる。アウトロが流れる中、

「ありがとうございましたー！！」

と吾華音が叫んだ。同時に大きな拍手と歓声。アウトロの締めで4人は深々と客席に数十秒間お辞儀。拍手が鳴り止まないままライトがフェードアウト。場内が10秒ほど闇に包まれ、照明が戻った後もしばらく拍手は続いていた。

『以上を持ちまして…』のアナウンスが場内に流れ始める。至ってまともに。

しかし途中から『もう一度お手回り品をお確かめ下さい。チップはフラワースタンドブースにあるおひねり瓶にお願いします』やら『家に着くまでが遠足です』やら妙な方向に。そして声色が変わり。

『最後まで聞いてくれてありがとうございます、場内アナウンスは私、召苗吾華音でした！バイバイ！』

残っていた観客から笑いと拍手が。これをきっかけに、以降の彼女が出るライブでは、この役は彼女に回ることがお約束となった。

涙あり笑いありの『21歳の新人アイドルファーストライブ』は、こう

して幕を閉じた。
